

柏センターの歩み（2005年～2025年）



柏センターは2026年3月末日に閉所しましたが、2005年に開所以来、地域の問題に向き合い、人と人をつなぎ、さまざまな地域活動の支援を続けてきました。そして、地域コーディネーターやスタッフが、時間をかけて、ゆっくり蒔いてきた種は、ひとつずつ実を結んでいきました。その地域づくりの20年間をご紹介します。

▶地域生活支援センターあいおっと内に開所

2005年
～2010年

傾聴ボランティアの養成

柏市・野田市で「傾聴ボランティア養成講座」を開催。両市に傾聴ボランティアグループを立ち上げ、施設や個人宅での傾聴活動をコーディネート。



～2013年

高次脳機能障害者の支援

高次脳機能障害者の活動を支えるサポートボランティアの養成、ボランティア活動の場の開拓に取り組み、社会参加を支援。～2013年



▶風の村デイサービスあいの手へ移転

2007年
～2025年

相談対応

福祉・生活に関する相談に対して、地域のさまざまな支援情報の把握やボランティア募集などにより、「ゴミ出し」「通院同行」などにも対応支援。

虹の街託児コーディネート

2008年

傾聴講演会

社協に「民生委員の研修としての活用」を提案。参加50名の半数が民生委員で、個人宅への傾聴の手掛かりとなる。

2008年
～2011年

高次脳機能障害者の料理教室

3名の親睦の場として月1回開催し、お出かけ企画も実施。



▶風の村光ヶ丘へ移転

2010年

サポートハウスでのボランティア活動支援

毎月「ボランティア連絡会」で施設と話し合い、入居者のニーズにあったボランティア活動を提供。



■誕生日カードは多くのボランティアが携わり、2024年まで継続。



■おしゃべり喫茶「くれよん」は月2回開催し、入居者同志、入居者とボランティアのふれあいの場として定着。



傾聴講演会

「地域新聞」に活動が掲載され大きな反響があり、サポートハウスで活動する傾聴グループが生まれ、柏市社会福祉協議会や地域包括支援センターからボランティアの相談が増えた。（参加者87名、V登録10名）

2012年
～2025年

あみいこ柏の開始～地域での仲間づくり・交流の場に～

7月麻雀教室開始。2014年度にはニット教室・折り紙教室・手芸の会開催。



～2014年

柏市との協業事業提案

「住み慣れた地域でのその人らしい暮らしをサポートする見守り事業」を提案し、採択。これは社協と協働してふるさと協議会・町会・自治会が見守りやたすけあい活動を立ち上げるための支援。2013年度に、中新宿町会からたすけあい活動の立ち上げ支援を支援。その結果40名のサポーターによる活動が2014年4月から開始。



2012年
～2025年

生活支援サービス開始

風の村の助成を受けて、生活支援サービスを開始。生活のちょっと困ったを支援して自立生活を支える一助となる。



2014年
～2025年

ケアラーズカフェ「くれよん」開始

隔月で開催。サポートハウスでの定例ボランティア活動について、施設とボランティアとの直接の調整に移行を進めた。



2014年
～2023年

柏市生活支援体制整備事業「支えあい推進員」受託

光ヶ丘団地空き店舗活用事業として、地域住民のための居場所づくり（コミュニティカフェ）の開設と運営に取り組んだ。団地商店会や自治会等の役員など地域住民とのつながりが広がり、深まった。→2022年まで たすけあい4団体・通いの場2団体立ち上げ支援

2016年
～2023年

ケアラーズ支援ネットワーク協議会設立

ケアラーネットみちくさと協働し、ケアラー支援ネットワーク協議会を設立し事務局を担った。2017～2011年「介護者のつどい」等を開催し、介護者支援の理解と広がりをつくった。

2018年
～2022年

街の縁側よってっの立ち上げ

安心システム企画「光ヶ丘サロン」参加者と共に、他地域の通いの場を見学、内容を検討しともに立ち上げ。→安心システムの運営の中で、相談対応で地域包括やサポートハウスケアマネと連携する事例が出てきた。また、推進員の情報（たすけあい団体）をケアマネに伝え、地域とつなぐ動きができるようになった。拠点の機能を活かすことを意識して活動した。

2019年
～2022年

安心支援システムの推進

光ヶ丘サロン月2回（健康講座や味噌づくり、演奏会、ヨガなど）よってっ（週1回の昼食提供する居場所施設利用や家族も参加）推進会議に風の村の全事業所長が参加し、職員の参加が増えたことや徐々に活動への理解が深まり周知されるとともに、連携した講座の開催や相談対応や介護サービスの利用者の参加につながった。

支えあい推進委員の活動の成果

団地商店街のコミュニティカフェの買い物支援グループが、たすけあい団体として支援内容を広げ活動を開始。地域全体へのチラシ配布でたすけあいへの理解と参加が飛躍的に進んだ。2月に「ささ支えあいの集い」開催。参加者150余名。保存版“たすけあいリーフレット”を全戸（11000世帯）配布。つながりあうことの大切さと光ヶ丘地域のたすけあい団体の活動を伝えることができた。



2019年
～2022年

コミュニティデザインの取り組み

2011年度13名へヒアリング
2022年度「地域みんなで支え合う 子ども・子育て支援」作戦会議から、こどもフェスタ、算数教室「単元王」の取り組みへ

2019年
～2022年

よってっは認知症カフェとして登録

認知症が進み参加できなくなった人を、ボランティア活動として声掛け見守りをして地域とのつながりを作り、他の参加者も認知症の理解を深めた。



2020年
～2025年

算数教室「単元王」開始

元教師などの講師や地域の見守りボランティアで、手作りの教材での学習支援が始まった。長期休みにも特別教室を実施し、こどものやる気が育ち、成果を出している。



2022年
～2025年

こどもフェスタチーム誕生

コミュニティデザインのワークショップにより、子どもフェスタチームが誕生。10月第1回フェスタには140名・スタッフ23名の参加してにぎわった。



通いの場立ち上げ支援

光ヶ丘地域に2件目の通いの場の立ち上げの支援、ボランティアの紹介等地域とつながた。

2023年
～2025年

つなぐ・つながるくれよん開始

生活支援ケア者を中心として、子どもの居場所・子ども食堂「つなぐ・つながるくれよん」開始



2024年
～2025年

よってっ食堂を再開

光ヶ丘サロンを参加者層の広がりを作るため「よってっ食堂」と「ヨガ・フレイル予防・風の村紹介」とした。参加者の声掛けで徐々に孤立していた人などの参加が増えている。

2025年

事業・企画は、地域の力で活動を引き継がれました！

生活支援サービス

→「たすけあい マカロン」発足

麻雀教室 →地域のサークルとして継続

光ヶ丘サロン →「街の相談室 光ヶ丘」として継続

算数教室「単元王」 →継続

つなぐ・つながるくれよん →継続

子どもフェスタ →「風の村みんなのフェスタ」として継続を期待。



地域の皆様とともに、誰もが自分らしく安心して地域で暮していけるようにと取り組んできました。これからも地域の力で継続・発展されるよう期待します。